演奏学科教授　土佐　誠

1. 研究活動

第43回イタリア声楽コンコルソ	2012. 11. 18	主催：毎日新聞社　日本イタリア協会 会場：名古屋芸術大学音楽講堂	日本イタリア協会が、若い才能のある人物を本場イタリアへ送って世界レベルの声楽家へと育て上げることを目的として毎日新聞社との共催で続けてきたこのコンクールの名古屋予選に運営及び審査員として参加
第4回コンコルソムジカアルテ	2012. 11. 18	日本イタリア協会主催、文化庁、イタリア大使館、ミラノ市等後援 会場：名古屋芸術大学音楽講堂	音楽と芸術、これから新しく世に出るアーチスト達のコンクールと銘打たれた「コンコルソ・ムジカアルテ」の名古屋地区の運営委員と審査員
2012カワイうたのコンクール	2012. 4. 22	電気文化会館ザ・コンサートホール、カワイ音楽コンクール委員会、カワイ音楽教室主催	審査員
新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ 名古屋地区オーディション	2012. 12. 7	主催　文化庁 公益社団法人日本演奏連盟 名古屋フィルハーモニー交響楽団等	名古屋音楽プラザにおいて審査員

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目　歌曲研究Ⅰ		
□前期　□後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
声楽コースでは、日本歌曲を重要な研究課題として位置付けている。それは、声楽の勉強を始めるにあたって、先ず歌詞の意味が解りやすい日本語の歌を通して感情的、音楽的表現力を身につけることによって、その後の外国歌曲やオペラの勉強がより深いものになるであろうとの考え方から一年次に設定されている。しかし、声楽的にも、人間的にもまだ未熟であると言わざるをえない一年生の学生にとって、クラシックの日本歌曲に使われている歌詞は、日本語とは言えども理解が難しいものが多くある。そこで、前期の前半では、浜辺の歌、ゆりかご、この道、からたちの花、等の若い学生にも比較的理解し易い曲を選んで、音楽的な響きになりにくい日本語をイタリア・ベルカントの発声法を活かして美しく響くように歌唱指導を心がけた。前期の後半は、万葉集にも出てくるような古い日本語が使われている歌曲も取り上げて歌唱法の幅を広げていった。そして、後期の授業では、言葉も音楽も若い学生にも馴染みやすい曲も取り上げ、個々の学生に合った歌曲の演奏と、その曲の解釈及び歌唱法についてのレポートの提出で一年の授業を締めくくった。また、日本歌曲の演奏にとって重要なピアノ伴奏を充分にこなせるピアノ伴奏者を毎回用意して、毎時間ごとにみんなの前で歌唱することを義務付けた。	日本歌曲集Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、中田喜直歌曲集小林秀雄歌曲集、團伊玖磨歌曲集等	

3. 学会等および社会における主な活動